

NPO法人調査 米価の高騰など影響

ひとり親世帯の子ども 食事情深刻

夏休み中「1日2食以下」4割

ひとり親世帯に夏休み中の子どもの食事情を聞いたところ、「1日2食以下」が約4割に上ったことが、NPO法人「しんぐるまざあず・ふぉーらむ」（東京）の調査でわかった。米価の高騰や物価高の影響があるとみられ、同法人は国による支援の必要性を訴えている。

同法人は、ひとり親世帯に食料支援などを行っている。調査は7月下旬、20歳以下の子どもがいるひとり親世帯を対象にオンラインで行い、3913人から回答があった。回答者の7割が小中学生のいる世帯だった。

「昨日、子どもは何食食べたか」との質問に対し、「2食」は38%、「1食」は3%だった。

「家族が必要とする米を買えないことがあったか」との質問では、「よくあった」と「ときどきあった」が計66%に上り、多くの世帯が米価高騰に苦しんでいることがうかがえた。

自由記述では「お米や物価が高くなり、今までの3分の1くらいしか食料が買えなくなった」「米の高騰でパンや麺類を増やそうと思ったが、そちらも高騰しているため、食費を切り詰めている」「米の代わりに食パンを食べさせているが、『お米が食べたい』と言われて困っている」といった切実な声が寄せられた。

同法法人の担当者は「深刻な状況で、国は米の配布や給付金の支給を検討すべきだ」としている。

（令和7年9月11日(木)読賣新聞より一部抜粋）